

河川・流域(1) (1-A-9-1~1-A-10-2)

河川・流域(1)では、レビュー講演「流域管理」の後、1 課題が講演中止であったため4 編の発表があった。

レビュー講演では、流域管理に関して、汚染の実態把握がまだまだ不十分であり、特にディフューズポリューション(ノンポイント汚染)に関する研究が、今後も望まれることを中心に報告した。

1-A-9-1 では、環境基準を超過した七北田川における原因究明の調査結果が報告され、中流域の下水処理場の放流水の影響だけではなく、上流の農耕地や市街地からの汚濁負荷も重要であるとの報告であった。さらなる原因究明の調査に加えて、これらの現状を踏まえた対策も重要になってくると考えられる。

1-A-9-4 は、群馬県内と首都圏の降雨中の窒素濃度と降水量についての報告であった。尾瀬の長蔵小屋では濃度が低く降水量も小さいという貴重なデータが示された。また、前橋市や箕郷町での降水量が首都圏に比べて多くなっていることから、近傍の発生源に加えて、首都圏の大気汚染物質の輸送経路が重要であることが示された。

1-A-10-1 では、森林の土壌水中のDOC 濃度の変化と、無降雨期間との関係が報告された。土壌表層のDOC 濃度は、無降雨期間が長くなると増加し、土壌表層にDOC が蓄積されることか示された。ただし、無降雨期間が短い場合に高濃度のDOC 濃度が出現する場合もあり、今後の研究の進展が望まれる。

1-A-10-2 では、北海道の別寒辺牛湿原の流域の河川で、腐食物質挙動に関する調査結果が報告された。採水時期によって、三次元蛍光光度分析法による腐食物質を示すピーク強度が異なり、降雨による湿原からの流出の影響が示唆された。ただ、調査回数が少ないため、更なる調査による解析が望まれる。また、各採水地点で、腐食物質の構造が異なると結果が示され、この原因究明に関する研究の進展に期待したい。

(豊橋技術科学大学・建 井上 隆信)